

「マンチェスター再び」 福本淳一

92年から94年まで UMIST の Language and Linguistics の Ph.D. コース在学で、2年4ヶ月マンチェスターで暮らし、今回、所属している大学の学外研究制度で2011年に再びマンチェスターに滞在する機会を得ました。帰国後も何度かマンチェスターには行くことがあったのですが、長期に滞在するのは17年ぶりということでその間に大きく変わっていたマンチェスターについて書いてみたいと思います。

まず、UMIST がなくなっていました。2004年にマンチェスター大と統合されたのは知っていましたが、実際に見てみると元 UMIST のあたりは閑散としていました。逆にマンチェスター大のあたりは新しい建物が増えたり建設中のものも多くあったり、古い建物と新しい建物が混在しており活気がある様子でした。組織としても統合されたのだと思いますが、UMIST がなくなってしまったという印象です。元 UMIST の建物で鉄道の線路から北側は売却というニュースもあり、UMIST 出身者としてはちょっとさびしい感じです。ちなみに Main Building は売却対象ではなく、主に寮施設の統合を目指しているそうです。

次に大きく印象に残ったのは City Centre を中心に全体的に街の建物がきれいになったことです。96年の City Centre の爆破後の復興できれいになっただけでなく、全体的にスタイリッシュな建物が多くなっていました。最近の流行なのかもしれません、壁をガラスにしたデザインが多く見受けられます。トラムも新たに黄色を基調とした新型車両も導入されただけでなく、Salford Quays, Eccles, Chorlton 方面にも路線が伸びており、今後も空港や Ashton, Oldham 方面へも拡張が予定されています。建物はきれいなものが増えてきたのですが、ゴミが多いのは相変わらずでした。それから日本食のレストランが増えました。昔は中華街の TEPPANYAKI くらいだったのですが、見つけただけでも 6, 7 件はあります。Yo Sushi という回転すしのチェーン店が Arndale Centre や Piccadilly 駅にもできており、少し高いと思うのですが、いつも結構な人が入っています。私はまだ入る勇気がなく行ったことがないので、残念ながら味はわかりません。

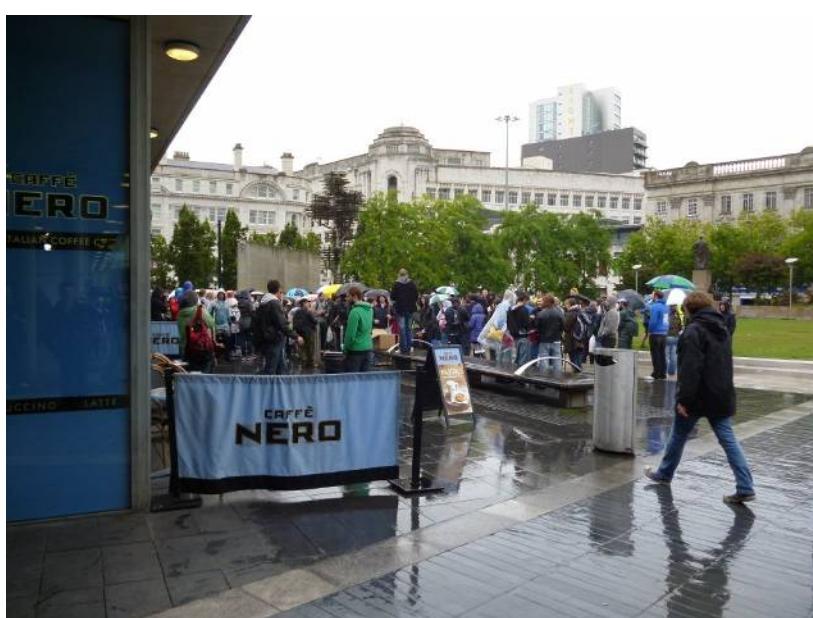
最後に 8 月中旬にイギリスで起こった暴動についてです。月曜日にロンドン郊外で起こった暴動がその日のうちにバーミンガム、リバプールへと広がったのですが、幸いその日はマンチェスターでは起こっていませんでした。火曜日の夕方の帰宅途中、Market Street のほとんどの店がすでにしまっていて、多数の警官が巡回していました。その時は暴動らしきものは見ませんでしたが、帰ってからテレビのニュースで暴動のことを知りました。Arndale Centre の入り口や Nike shop, DIEZEL などの店のガラスが割られ、Miss Selfridge は店が燃やされていました（写真）。私の家は Market Street から 5 分のところでしたが、幸い何もありませんでした。次の日に Piccadilly Garden で街を片付けようとモップを持った多くの人が集まっていました（写真）。被害はそれなりに大きかったのですが、比較的局所的で日本での報道がどうだったのかはわかりませんが、実家から電話がかかってきたり、マンチェスターが燃えているけど大丈夫かという心配のメールがいくつか来まし

た。燃えていたのは Miss Selfridge だけですが、そこだけが大きく報道されるとあたかも街が全部燃えているような印象を与えてしまったのかかもしれません。数日後に気付いたのですが、元 UMIST の Mail Building も何枚かのガラスが割られていました。暴動の原因や警察の対応などいろいろ報道されていますが、このような暴動はなくなつてほしいものです。

これを書いている時点で、帰国まであと一ヶ月となりましたが、残り少ない英国生活を満喫したいと思います。



Miss Selfridge の燃えた跡です。割られたガラスのところには板が貼られています。



Piccadilly Garden に集まっている人たち。写真の NERO は Café のチェーン店です。イギリスにもたくさん Café ができています。イギリス人もコーヒー好きだったんですね。